

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
<b>理念に基づく運営</b>						
<b>1. 理念の共有</b>						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての「一人ひとりを大切にしたい」という理念を事業所でも掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人研修や年度初めの全体会議等で法人全体で理念の確認をしている 一人ひとりに対してその人にとってのよいケアは何か、日々観察を行いカンファレンス等で話し合っている。		
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には入所時に説明し、玄関にも掲示している。また、ホームページにも記載有、運営推進会議でも理念についての話をしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	法人の敷地の中の施設の為、なかなか気軽には入りにくいようではあるが、見学はいつでも受け入れており、どのようなところか知って貰えるよう努力している。		現在デイサービスセンターの利用者と一緒にアクティビティを行ったりすることはあるが、今後更に隣接しているパワーアップセンターに来る方やケアハウス・デイサービスの利用者などと交流が出来るようにしていきたい。
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市で開催されている行事に積極的に参加している。民家の畑のヒマワリ見学に行く等地元の人々と交流している。		地域の情報を提供してもらえるよう運営推進会議などで声をかけていく。
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	在宅介護支援センター主催の市民対象の介護者教室で、管理者が認知症についての講師を行った。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>						

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価での改善点をチーム会議等で話し合い改善策を検討した。具体的には、換気・空調の配慮の項目で温度計の他に湿度計の設置が特記された為、話し合い、設置し職員は湿度にも気を配るようになった。また、心地よい湿度を保てるよう加湿対策の意見を出し合い風邪予防にも努めている。また、入居者の自己決定や希望の表出への支援の項目で月に1度の自炊の回数を日常的に増やし、利用者の楽しみや自立度を高める事で自己決定をはかって欲しいと言う事について話し合った。回数を増やしてみたが、料理から自己決定の表出はなかなか出てこなかった為、再度やすらぎ園の利用者に合った方法を検討し実施して評価をし質の向上をめざしている。		地域との交流が課題として出ている。複合施設という特徴を生かして交流が出来る方法を検討していきたい
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価からの改善点を議題に挙げ改善策を話し合った。具体的には、地域との交流促進の項目では利用者の家族からは見ず知らずの方なのに先方に迷惑をかけてしまうのではないかと等の意見もあり、今まで通り地域にこちらから外出する方が良いとの話もあった。また、身近なパワーアップセンターを利用される方から気軽にお茶など出来る様出迎えてみてはどうかとの話もあり、実現に向け検討中である。		
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1度利用者名簿待機者名簿を届けており、担当者と会う機会有。不明なことがあった時など電話でも相談が出来る。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は法人の全体会議の研修報告等で話を聞く機会をもっている。		
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会があり、毎月法人内で実施し研修の内容や事業所での問題点など議論する機会がある。委員会に出していない職員も内容がわかるよう議事録を回覧している。		
4. 理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には、利用者や家族に十分に説明をし、理解、同意を得た上で捺印を頂いている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の受け入れは行っていないが管理者や職員が本人の話をよく聞くようにしてその場で解決出来ない事に関しては会議で検討したり家族と相談していく。		
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や定期の新聞等で伝えているが、面会の少ない家族には情報量が少なくなってしまう。		面会の少ない家族とももっと情報を交換できる方法を検討していきたい。
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回開催している家族会でアンケートを配布し希望や満足度等記入してもらっており参考にしている。		
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時その都度相談している。また、会議で意見や案をまとめて文書で提出し決裁をまわしている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	年度末は毎年事業計画の見直しを行う為、勤務調整についても検討している他、必要があれば随時会議で検討出来る体制が有。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員個々の生活環境に配慮し、勤務時間や休日についてできるだけ希望に添えるように話し合いを行い契約をしている。日常的に他の事業所との行き来もあり法人内の職員とは顔なじみになっているため、異動のときも受け入れやすい。異動を行うときは引継ぎ期間を設け、他の職員について利用者と職員お互いが慣れていけるようにしている		
5. 人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員研修、各種委員会や内外の研修等で学んでいく機会を設けている。参加した職員が全体会議の場で研修報告をする仕組みがある。		
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加した時に同業者と交流する機会はある。法人としては居宅支援事業所が地域ケア会議などの参加をし交流を持っているが、グループホームとしては参加する場がない。		今後グループホームなどの地域密着型の施設とも交流する機会を持ちたい
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間は仕事から離れて休むことができるよう休憩できるスペースを設けている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎年度各自の目標を設定し、アンケート等でチェックをしながら更に修正を加えている。また、積極的に必要な資格習得のチャレンジを応援している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学の受け入れや利用前の本人との面接などで本人の話を聞いている。希望があれば体験利用も出来るようにしている。		
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学时・入居が決まって契約・利用となっていく間、家族とのやりとりの中ではなしを聞くよう努めている。また、電話など法人の支援センターでいつでも話が聞く事が出来るしくみがある。		
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談は法人の在宅介護支援センターで受け付け、介護支援専門員や生活相談員が対応し、必要としている支援を見極めアドバイス等している。		
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一番新しい利用者は約1年前に入居され、家族の希望も有老人保健施設から直接来られていきなり開始になってしまった。		体験利用だけでなく、本人や家族の希望を伺いながら本人に合わせた方法で馴染めるように対応していきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃からコミュニケーションをよくとっており、利用者の性格等理解し、サポートするようにしている。		
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人が不穏は時などは都合がつけば面会にきて頂いたり、電話で話をしてもらう等協力してもらっている。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会や外出・外泊は希望があればいつでも受け入れるようにしている。家族旅行に行かれる方もいる。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にも協力頂き昔からの知り合い等に声かけしたり、一緒に外出している方もいる。		
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を職員は把握し、トラブルにならないよう、間に入るよう心がけている。		
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホームから併設の特養に移る方が多く関係の継続を行っている。退居され在宅で支援が必要な場合も法人で相談を受け入れる体制がある。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
<b>1. 一人ひとりの把握</b>						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から利用者の希望や意向を見つけ一緒に考えている。		
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より生活歴などを聞き職員は情報を把握し日常のケアや会話に役立てている。本人の個人情報の用紙に記入し情報を共有している。		
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアチェック表や日誌にその日の暮らしの様子や変化のあったことを記録できることわかることの力の発見に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャー、看護師、担当者と話し合い計画し家族にも説明し意見を求めている。カンファレンスに家族は参加されないが、面会時などに話を伺うようにしている。		面会の少ない家族には郵送することが多く説明や意見を聞くことが不十分であり、家族からより意見を聞き、計画に反映させたい。
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しをしている。体調の変化や異常時にはその都度話し合いをもち、新しい計画を立てている。		
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアチェック表や日誌にその日の暮らしの様子や異常を記録し、介護計画の見直しの時に活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入浴等本人の状態に応じて併設の特養のリフト浴を利用することもできる。		機能低下を防ぐ方法として、パワーアップセンターの活用が出来る仕組みを作っていきたい
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	個別ではないが本人の拒否がない場合は幼稚園の運動会の参加や文化会館のイベント等の参加など地域資源を活用して楽しんで過ごしていただけるようにしている。		本人の意向について今後もっと目を向けていき地域と協力して支援出来る様にしていきたい。
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅介護支援事業所も併設しており、情報交換はできているが介護保険外で現在利用している公的なサービスはない		
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は地域包括支援センターと協働していることはないが、今後必要があれば一緒にケアを考えていきたい。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携病院との関係が密であり、受診・往診もすぐに対応出来る体制になっている。家族にも納得していただき、協力医療機関をかかりつけにしている。		
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ、ご家族に相談した上で専門医の受診を行えるよう支援している		
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が常勤している為健康管理や連携病院との連絡が密である。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	常時連携病院と連絡を取れる体制であり、退院後も、主治医が往診に来てくれている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人で看取りの指針があり、家族にも説明をし同意をいただいている。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化に備えてチームとしての支援が取り組めるよう指針作成している。		利用者の体調の変化等早めに事業所内で話し合い対応策を検討していききたい。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移住の際には書類等で情報の伝達を行っている。		書類の情報交換だけではなく担当者会議の開催等行い情報交換をしていききたい
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1. その人らしい暮らしの支援						
(1) 一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の話を聞き、言葉遣いも気をつけている。 個人情報の取り扱いやプライバシーのマニュアルも作成してあり研修や全体会議、朝のミーティング等で確認し職員が理解できるようにし尊厳を損ねるようなことはしないよう勤めている。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その日に着る服や外出時の行き先等を本人に話し、選択してもらっている、		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者から身体を動かしたい、縫い物をしたい等要望があった時にはその都度道具を出して一緒に行ったり支援しているが、一人ひとりの希望に添えていない時もある。		利用者一人ひとりのその日の過ごし方を個々に援助出来るよう日頃から要望を聞き、計画・実行して行けるよう取り組みたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者のその日着たい洋服を一緒に選んだり、行事等特別な日には爪にマニキュアや本人私物の口紅を塗ったりしている。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度自炊を行っており買い物から片付けまで一緒に行っている。自炊は月1回だが、おやつ作りの回数を増やし、作って食べる楽しみを持つことができるようにしている。普段の食事では配膳や食器洗い等出来る部分の力を活用して一連の作業に少しでも参加できるようにしている		
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族が面会時におやつを持参してくれる方もいる。また、外出時に選択する機会がある。		その日のおやつ等食べたいものを一緒に買いに行く回数を増やしたい。
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表に毎日記入しており、なるべく自立して行けるように段階をふんで援助している。		
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後行う事が多くその日その日の声かけする方もグループ分けされている。		職員の決めた日程で声かけする事が多い。拒否みられた時には無理には勧めず、後日また声かけを行っている。
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝具については本人に合ったもの(ベッドが布団かなど)を個別に用意していただいている。眠る時間は特に決めておらず、夜更かしにならない程度に本人たちに任せて眠たくなったら休んでもらうようにしている。朝も朝食に間に合う程度に起床できればよいと考えている。体調や気分によっては日中休んでいただいたり、起床時間でも無理に起こさないようにしている。日中身体を動かす機会を作り、夜間ゆっくり休めるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を職員は理解しており、歌が好きの方、散歩・裁縫等本人の興味のある事や好きな事に取り組めるよう個別に支援している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
60		お金の所持や使うことの 支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に合わせて財布を所有している方もおり、買い物時持参し一緒にレジに並んでいるが、所有している財布からは使用していない。		買い物際にはレジで利用者本人にお金を払ってもらえる機会を作りたい。また、お金への執着がある方には家族にも理解してもらえるよう支援していきたい。
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に行きたい方は職員が付き添い出かけたりしている。		
62		普段行けない場所への外 出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1度は外出している。また個別で利用者の日用品を買いに出かけ本人の好きな絵柄のものを選んでもらっている。		
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状が家族から送られてきている利用者もいるが、利用者が字を書くことに自信がないとの声もあり、こちらから手紙を書く機会がない。		利用者が字を書くことに興味を持てるよう援助し年賀状や絵手紙等今後行っていきたい。また、家族とも話し、電話での会話も支援していきたい。
64		家族や馴染みの人の訪問 支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は自由であり、何人かの利用者は、友人や知人がよく訪れている。共有スペースを利用していただいたり、本人の部屋で一緒に過ごしていただいたりしている。平成18年度以前の入居者が多く近隣からの入居でない方もいる。そういった方に対してのなじみの人の訪問が難しい。		
(4) 安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの 実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人としてマニュアル、委員会があり職員は内容を理解し日頃取り組んでいる。		
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夕方から夜間以外は玄関の施錠をしないようにしている。		
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	食事時以外でもさり気なく話をしながらその日の様子を観察している。夜間の巡回時も静かに個人の部屋に訪れ体調等変わりないか伺っている。		
68		注意の必要な物品の保 管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や包丁等は鍵のかかる棚に保管し目の届きにくい夜間は施錠している。石鹸や化粧品等は個々の状態に合わせて使用している。		



項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人で毎月事故防止の委員会を行っている。また、ヒヤリ・ハット事例を作成したり、日頃から気付いた事をミーティングで話し合っている。		誤薬の事例があり、薬を間違わずに飲む様確認する方法を検討していきたい。
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ほぼ全職員が救命救急講習(AEDも含む)を受け、対応出来るよう訓練している。また、緊急時のマニュアルも備えてあり、マニュアルを見ながら落ち着いて対応出来る様に備えてある。		
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に3回防災の避難訓練を行っている。また、避難誘導マニュアルがあり職員は手順等把握している。消防署が近隣にあり普段より関係を作っている。法人で災害時に備え食品等の物品の準備もしている。		運営推進会議で地域のとの話し合いの時間を作り、公的な施設だけではなく近隣との関係も含めて事業所の災害対策等を話し合っていきたい。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に家族に説明し、家族会や面会時にも質疑応答するようにしている。状況の変化が見られた時はその都度対応を検討しご家族にも報告をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の気付きは日誌に記入するよう徹底し、毎日のミーティングやチーム会議等で話し合っている。また、毎朝検温し、必要のあるかたは血圧も計測している。異変ある時は看護師に報告、協力医療機関に相談をしている。		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の既往症等職員は情報を共有し看護師・主治医と連携を図っている。また、服薬一覧表もあり、内容を確認出来ている。		
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事については、特養栄養士が立てた献立で食事のバランスが取れるようにしている。個々の状態によって看護師と栄養士で食事形態等検討し本人に合った状態で提供している。 毎日ラジオ体操を行い毎週2回法人独自の運動プログラムを実施する等体を動かす働きかけに取り組んでいる。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアについて、毎食後自分で出来る方には声かけをし、援助が必要な方は一緒に行っている。		併設の歯科クリニックにて定期的に受診し治療の他、ブラッシング指導等も受け口腔内の衛生等を保てるようにしている。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事形態や量を多職種で相談して支援している。食事時間だけではなく、間をとる水分やおやつなども含めて1日に必要な摂取量が取れるようにしている。摂取量の確認を行っている。		
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてのマニュアルがあり、法人で毎月委員会を開催している。また、流行している時期には会議やミーティングでも何度も対応について確認しあい、必要時いつでも対応できるよう準備している。		
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	自炊時には食材の選択・洗浄や加熱をしっかり行うよう徹底している。また、冷蔵庫に管理する物にも賞味期限・開封した日付を記入したり使用前に確認している。ふきん等は毎週消毒し、調理器具も熱湯消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1) 居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターに四季折々の花を植え利用者にも喜んでもらっている。入り口も広く手すりも付いている為、出入りしやすい作りになっている。		
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは入っている時は電気が自動でつき他の利用者がいきなり入ることがないように仕組みになっている。台所や浴室は家庭と同じような造りになっている。居間も吹き抜けになっており開放感がある。また、季節の飾り(正月飾りや雛人形等)も置いている。		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階や洗面所に座れる場所があり何人かで話をしている姿が見られる。		
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの家具や洋服、写真等を家族と一緒に持ち込んでいる。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除時には換気をする他、一日に数回換気を行っている。また、お手洗もその時に応じて換気や消臭スプレーも使用している。共有スペースに温度計・湿度計を設置、確認し温度湿度を出来るだけ適度に保持できるよう心がけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやつかまる所が各々あり、歩行場所の幅も歩きやすくなっている。浴槽が深かったため現在道具を使用し高さを変えて入りやすいようにする等工夫している。 2階の利用者は手すりにつかまることで皆一人で階段の上がり降りを行うことができおり、転落も無く過ごされている。所々に座ることができるスペースがあり、疲れたら無理して歩かずに座って休めるようにしている。		
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の認識間違いで不安を招いてしまう物品等がある場合は置き場所を変える等対応している。お湯の設定温度を42度に管理し火傷しないように対応している。困難な場合はミーティングや会議で検討している。		
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	草花の植え替えや玄関周りの整備等一緒に行っている。		

(様式1)

## 自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
<b>サービスの成果に関する項目</b>			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者がこころへ出かけている <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98		職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない